

資料番号	地域 1
------	------

令和 4 年 1 月 19 日
課 名 地域政策局都市圏魅力づくり推進課
担当者 都市機能調整担当監 植野
内 線 2568

中央公園広場におけるサッカースタジアムと広場エリアの整備について

1 要旨・目的

広島市が事業主体となっていく、中央公園広場におけるサッカースタジアムと広場エリアの整備について、これまでの取組状況を報告する。

2 現状・背景

(1) 経緯

令和 2 年 3 月 30 日	「中央公園サッカースタジアム（仮称）基本計画」を策定
令和 2 年 10 月 22 日	「サッカースタジアムと広場エリアに求められる機能等について」広島県意見を取りまとめ ⇒事業者公募に反映
令和 3 年 1 月 19 日	「中央公園広場 4 者が期待する整備の方向性」を取りまとめ
令和 3 年 3 月 31 日	スタジアムと広場エリア等の整備について、DB（デザインビルド）事業者を選定【代表者：大成建設】
令和 3 年 8 月 31 日	広場エリアの賑わい施設整備・運営を担う民間事業者（P P F I）を選定【代表者：N T T 都市開発】
令和 3 年 10 月 19 日	サッカースタジアムと広場エリアの集客目標（310 万人）を説明

(2) サッカースタジアム等整備事業の概要

サッカースタジアム		広場エリア	
・規模	敷地面積 49,900 m ² 、建築面積 26,700 m ² 延床面積 60,000 m ²	・規模	整備面積 35,700 m ² 、芝生広場 12,000 m ²
・座席数	約 30,000 席（車いす席 300 席）	・園路幅員	メイン園路 6m 以上
・コンコース	2 階、3 階とも幅員約 10m	・その他	指定緊急避難場所、 ビオトープ、ドライミストの整備等
・駐車場等	駐車場台数約 240 台、バイク約 300 台		※店舗は P P F I 事業者自ら整備

(3) 全体事業費と財源内訳

全体事業費 271 億円					
事業費	○DB 事業	257 億円（スタジアム本体 224.4、ペDESTリアンデッキ 17.8、広場整備 14.8）			
	○特定公園施設	3.0 億円			
	○発注準備・施工監理	2.6 億円			
	○埋蔵文化財調査	8.3 億円			
財源内訳	国庫補助金	寄付金 63 億円	民間 資金	借入金 （使用料から 償還分）	自治体負担分 100.4 億円
	80.15 億円	〔エディオン 30 億円 マツダ 20 億円 地元経済界 10 億円 個人 3 億円〕	〔PPFI 事業者から 0.3 億円〕	27.1 億円	

3 概要

(1) これまでの取組

- これまで基本計画や事業者公募等の各段階において、委員会等の場を通じて議会へ説明。
- 県議会からの意見は、各段階において、広島県の意見に盛り込み、広島市に申し入れ、事業内容に反映されるよう努めてきたところ。
- 具体的には、
 - ・一昨年3月、「サッカースタジアム基本計画」の策定
 - ・一昨年10月、求められる機能等について、広島県意見を取りまとめ
 - ・これをベースに県が主導して、昨年1月、「4者が期待する整備の方向性」を取りまとめ
 - ・これを踏まえて、広島市が公募指針や審査基準等を作成、民間事業者が事業内容を提案
- 一連の積み重ねにより、PPFI事業者からの提案に、「広島の魅力を発信し利用者が魅力を体験できる施設」が「広島カルチャーゾーン」として盛り込まれる等の成果に繋がった。

【意見の反映状況】

県議会からの意見	基本計画・整備の方向性・公募資料への反映	DB・PPFI 提案内容
市外県外からもたくさん人が来てくれる施設に	【基本計画】 ・多目的化・多機能化により、賑わう交流拠点に ・サッカーの試合がない日にも活用される多目的スタジアム ・年間を通じて賑わいの創出に寄与 【整備の方向性】 ・市内のみならず、県内外からの集客効果・波及効果が期待できる場所となることを目標 ・広島モノ・コトを体験・購入できる場所 【DB 公募資料（評価の視点）】 ・365日のにぎわいを実現するための多面的検討、県内外に留まらず広域的な集客が期待できる提案がされているか 【PPFI 公募資料】 ・県全体及び23市町の魅力をアピールし、県内各地に誘導できる機能を付加するよう配慮する	県内外から幅広い集客を目指すとして、来場者を想定
県全体・23市町の魅力をアピールし、県内各地へ誘導を		【スタジアムゾーン】 ・多目的に使える広場機能 ・365日にぎわう公園を目指して日常イベントの開催
サッカーがない時でも来てもらえる環境、広島市以外の市町の魅力をアピールできる仕掛けづくりが重要		【広島カルチャーゾーン】 ・広島クラフトマーケットなど商品・コト体験を通じて、広島文化・魅力の発信、県産品購入の端緒に ・23市町の食・自然・文化を体験できる複合型イベントを開催し、県内各地域を訪ねるきっかけづくり
23市町に波及するような行事や企画を		
平日にも人が集まるように		
将来的な発展余地を求めべき	【DB, PPFI 公募資料（評価の視点）】 将来にわたる拡張性や可変性のある提案となっているか	テナントの更新や拡張が容易な設計、DXを活用した来園者の分析、持続的な運営改善を行う
スタジアムと周辺施設のエリアマネジメントを	【整備の方向性】 紙屋町・本通り等既存商業エリアとの連携 【DB 公募資料（評価の視点）】 中央公園広場及びその周辺地域との回遊性のある歩行空間などにぎわいや楽しさを創出するための魅力的な提案がされているか	・周辺施設とのペDESTリアンデッキを整備し、回遊性を向上 ・DXを活用したデータ取得・分析を通じて、基町・紙屋町エリアとも連携しながら、エリアとしての付加価値向上を目指す
紙屋町等の客が減らないように。紙屋町等との回遊性を		

(2) 県の負担を考える上での参考指標

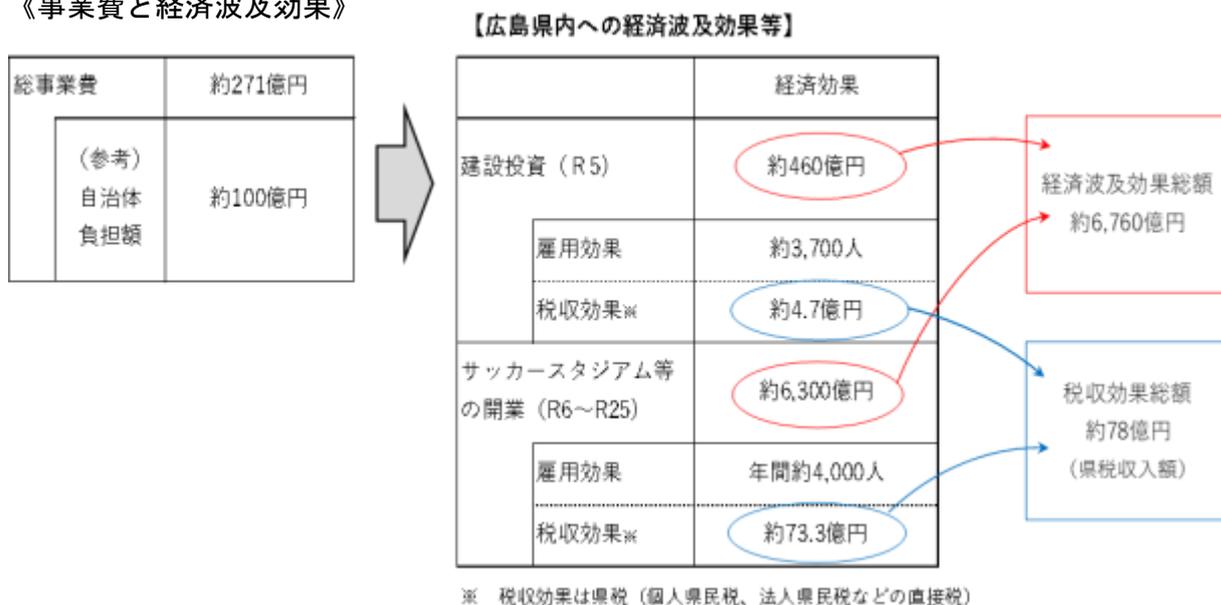
①集客目標（内訳）

区分	想定来場者数	左記の内訳		
		広島市内	県内（広島市除く）	県外
スタジアム	85万人	49万人	26万人	10万人
多機能化施設	25万人	14万人	6万人	5万人
広場利用	200万人	100万人	50万人	50万人
合計	310万人	163万人	82万人	65万人
集客割合		53%	26%	21%

②経済波及効果

- ・ 県の経済波及効果計算ツールを用いた広島市の試算結果によると、広島県内への経済波及効果として、建設投資によるものが約460億円、開業後20年間の波及効果が約6,300億円、総額約6,760億円が見込まれる。
- ・ 同様に、本事業により県内で誘発される税収効果は、総額で約344億円が見込まれ、このうち県税については、建設投資によるものが約4.7億円、開業後20年間で約73億円、総額約78億円が見込まれる。

《事業費と経済波及効果》



(3) 県の評価

- サッカースタジアムと広場エリアについては、広域的な県の立場から、「広域から集客が期待でき」「県全体の活性化や中枢拠点性の向上につながる」施設にすべきと求めてきた。
 - 事業者選定が終わりスタジアムと広場エリアの全体像が示されたが、
 - ・ 日本初の「まちなかスタジアム」となる好立地を活かし、スタジアムと広場が一体となって新たな賑わいの拠点を生み出すことで、都心の回遊性向上、滞在時間の増加が期待できること
 - ・ 年間を通じて中四国全域をはじめ広域から幅広い世代を集客し、県内各地を訪れるきっかけとなる魅力発信・誘客が期待できること
- など、県の意見を踏まえた事業提案となっており、本県全体の活性化や中枢拠点性の向上への効果が期待され、県としても応分の負担をすることが妥当であると考えられる。

(4) 今後の対応

費用負担に向けた議論を進めた上で、2月議会に予算案を提案する。